

平成 28 年度「株式学習ゲーム」の実施状況と 参加校からのアンケート調査結果について

日本証券業協会
東京証券取引所

「株式学習ゲーム」は、中学生・高校生・大学生を主な対象として、株式の模擬売買を通じて現実の生きた経済や市場の動きを身近に感じながら、経済の動きや社会の仕組みなどについて体験的に学習するプログラムとして、平成 8 年度から日本証券業協会、東京証券取引所が学校向けに提供している教材である。

1. 実施状況

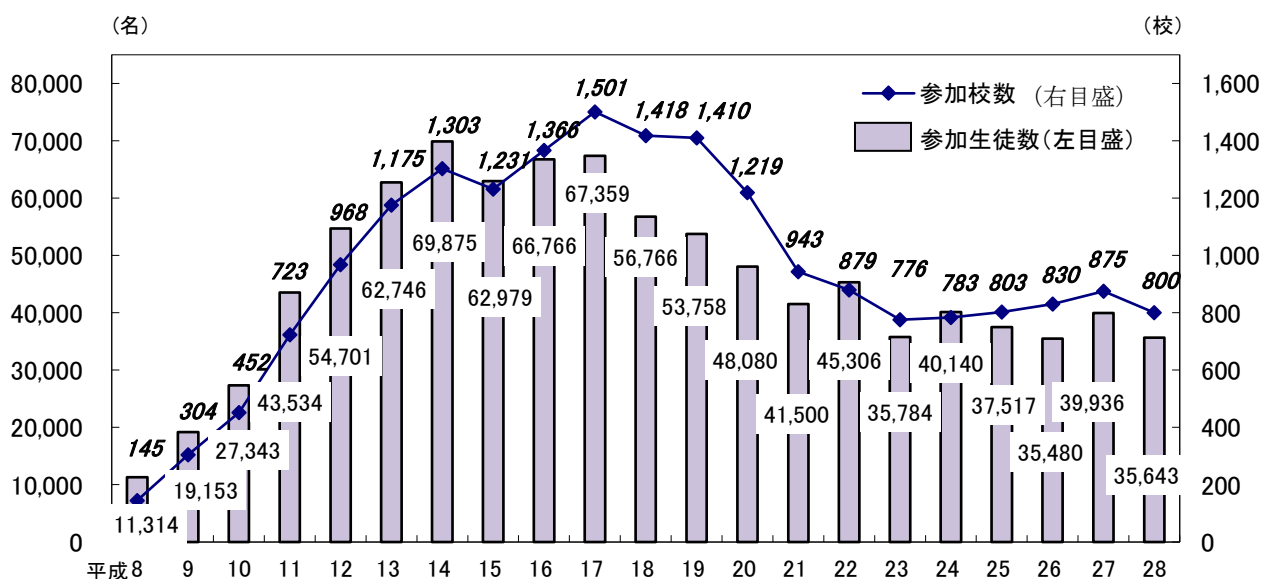
(1) 参加校数・参加生徒数など

平成 28 年度の合計参加校数は前年度（875 校）から減少し、全国で 800 校となった。参加人数についても前年度（39,936 人）から減少し、35,643 人となっている。

(第 1 表) 参加校数・参加生徒数（春季・秋季・冬季別）

実施期間	参加校数(校)	参加生徒数(名)
春季 (平成 28 年 4 月 11 日～8 月 5 日)	228	10,966
秋季 (平成 27 年 8 月 15 日～12 月 22 日)	345	16,273
冬季 (平成 28 年 1 月 10 日～2 月 28 日)	227	8,404
総合計	800	35,643

(第 1 図) 参加校数・参加生徒数の推移



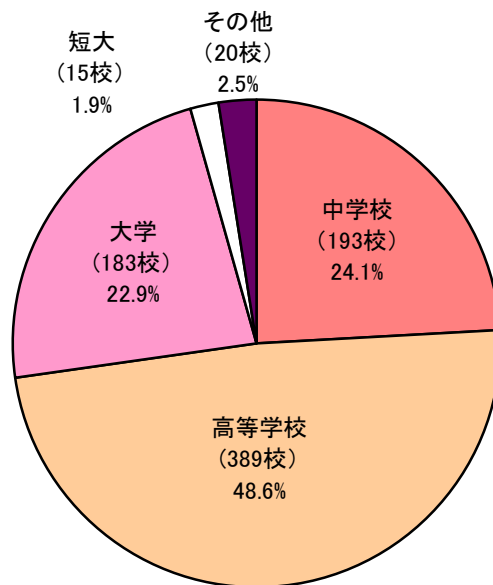
※1 平成14年度以降はインターネット方式が併行導入されたため、従来方式のマークシート方式と合算した数値となっている。

※2 平成25年度からはマークシート方式を廃止したため、インターネット方式のみの数値となっている。

参加校（800校）の内訳は、高等学校48.6%（389校）と最も多く、次いで中学校が24.1%（193校）、大学22.9%（183校）、短大1.9%（15校）、その他の学校等が2.5%（20校）であった。

前年度と比べて、中学校が42校、高等学校が19校、大学が12校減少した。また、期間別の参加校数の内訳は、春季28.5%（228校）、秋季43.1%（345校）、冬季28.4%（227校）となっている。

（第2図）参加校（800校）の内訳



（2）売買の傾向

平成28年度（3期間合計）において、売買回数の最も多かった銘柄は任天堂であった。

以下、2位トヨタ自動車、3位ソニー、4位セブン&アイ・ホールディングス、5位ソフトバンク、6位明治ホールディングス、7位東宝、8位オリエンタルランド、9位日本航空、10位イオンの順となった。

例年通り日常生活で利用している銘柄や、ニュース等で取り上げられ生徒の間で知名度が高いと思われる銘柄の売買回数が多い結果となった。

（第2表）売買回数の多い銘柄一覧（過去3年分）

順位	平成26年度	平成27年度	平成28年度
1位	ソフトバンク	トヨタ自動車	任天堂
2位	トヨタ自動車	セブン&アイ・ホールディングス	トヨタ自動車
3位	セブン&アイ・ホールディングス	オリエンタルランド	ソニー
4位	任天堂	ソフトバンクグループ	セブン&アイ・ホールディングス
5位	オリエンタルランド	任天堂	ソフトバンクグループ
6位	ローソン	ソニー	明治ホールディングス
7位	ソニー	イオン	東宝
8位	イオン	ローソン	オリエンタルランド
9位	コカ・コーライーストジャパン	日本航空	日本航空
10位	日本航空	アサヒグループホールディングス	イオン

2. アンケート調査結果

毎年、株式学習ゲームの終了後、参加した学校の教員を対象にアンケート調査を実施している。

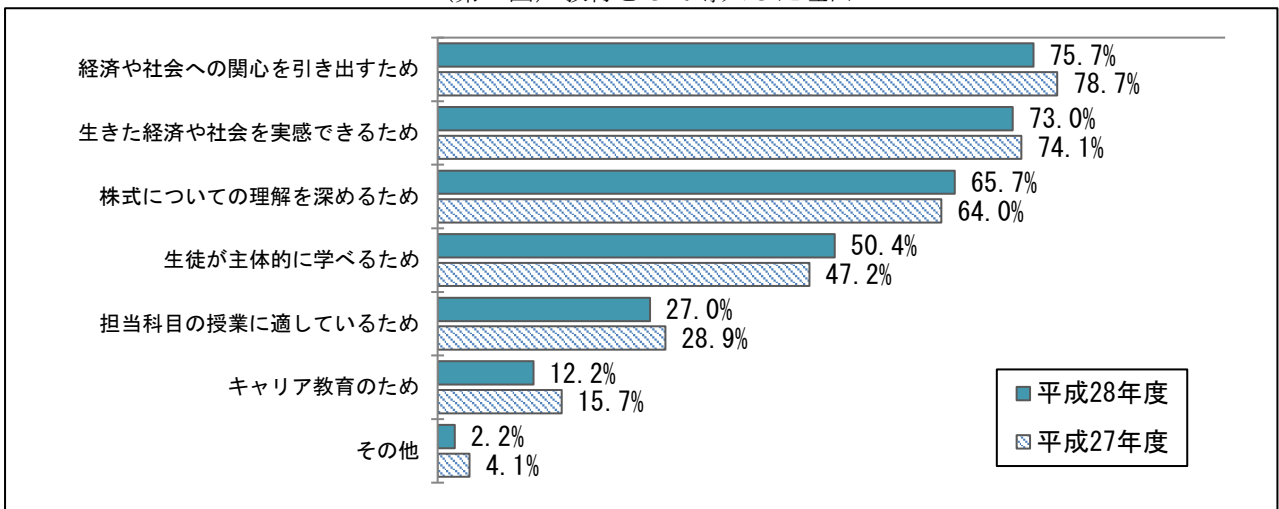
平成28年度は230校（中学校66校、高等学校107校、大学その他57校）から回答を得た。回答内容等の詳細については、以下のとおりである。

（1）株式学習ゲームを教材として導入した理由について（複数回答）

本教材を導入した理由について尋ねたところ、前年度と同様「経済や社会への関心を引き出すため」という回答が75.7%（174校）と最も多かった。

次いで、「生きた経済や社会を実感できるため」73.0%（168校）、「株式についての理解を深めるため」65.7%（151校）の順となっている。そのほかでは、「アクティブラーニングを实践するため」「会計学を学習するため」といった回答も寄せられた。

（第3図）教材として導入した理由



（2）実施した授業科目について（複数回答）

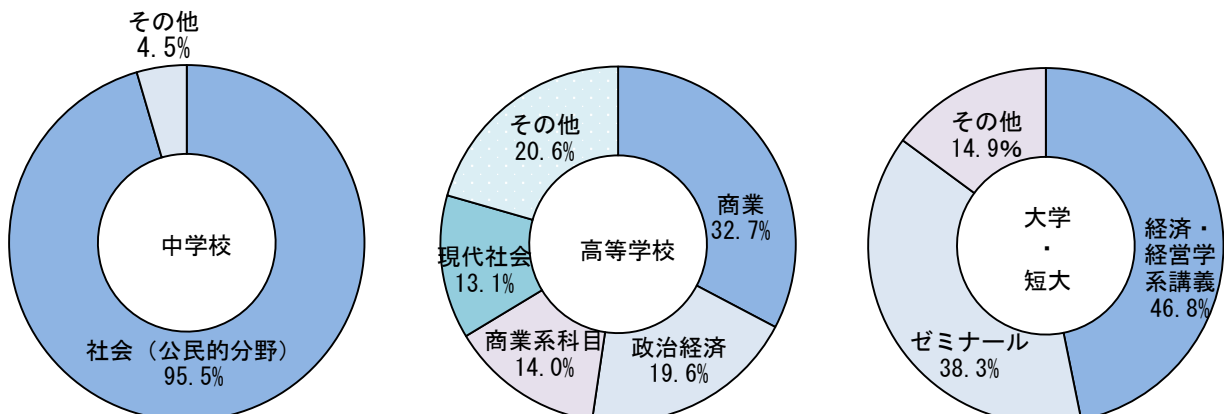
実施した授業科目について尋ねたところ、中学校では、ほとんどが「社会（公民分野）」95.5%（63校）で実施していた。

一方、高等学校では、「商業」の授業での実施が32.7%（35校）と最も多く、次いで、「政治経済」が19.6%（21校）、「商業系科目」が14.0%（15校）となった。

大学その他では、全体の46.8%（22校）が「経済・経営学系講義[※]」における実施となり、最も多い割合となった。次いで、「ゼミナール」が38.3%（18校）となっている。

※「経済・経営学系講義」には「証券・金融論」「経済学」「経営学」等を含む。

（第4図）株式学習ゲームを実施した授業科目

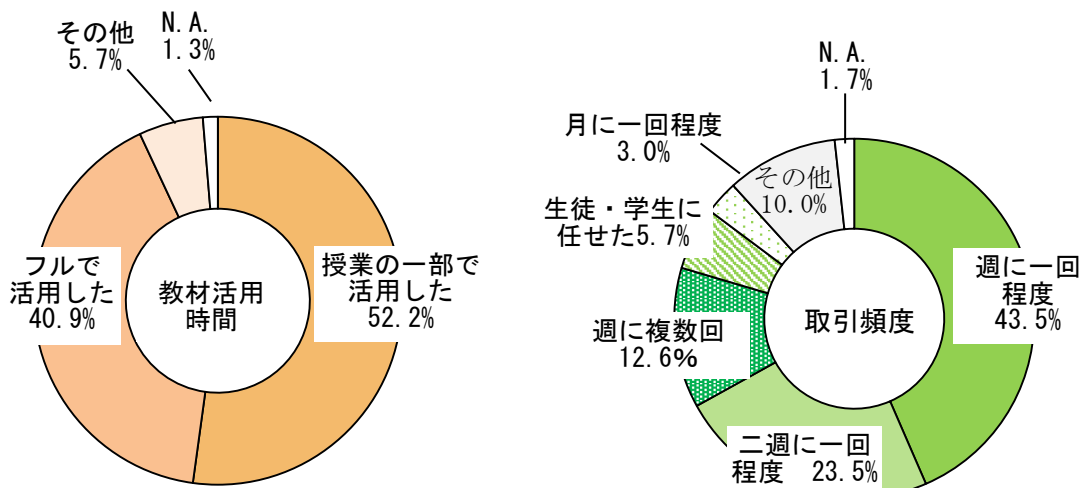


(3) 株式学習ゲームの活用時間と取引頻度について

一回の授業時間のうち、本教材をどの程度活用したかを尋ねたところ、「授業時間のうち一部で活用した」という学校が最も多く 52.2% (120 校)、次いで「授業時間を全て活用した」との回答が 40.9% (94 校) となった。そのほかの回答として「ガイダンス時以外は各自に委ねた」、「昼休みや放課後を利用した。」などがあつた。

また、取引頻度については、「週に一回程度」が 43.5% (100 校) と最も多く、次いで「二週間に一回程度」が 23.5% (54 校)、「週に複数回」が 12.6% (29 校)、「生徒・学生に任せた」5.7% (13 校)、「月に一回程度」3.0% (7 校) となった。

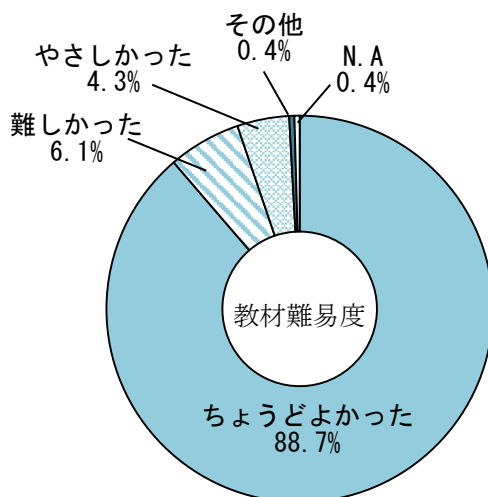
(第5図) 株式学習ゲームの活用時間と取引頻度



(4) 株式学習ゲームの難易度について

本教材の難易度について尋ねたところ、「ちょうどよかった」と回答した学校が 88.7% (179 校) と最も多かったが、「難しかった」と答えた学校も 6.1% (14 校) あつた。内訳は中学校 2 校、高等学校 9 校、大学 1 校、短期大学 1 校、特別支援学校 1 校であり、具体的な理由として「企業分析を行うことが難しかったため」「基礎知識が不足していたため」といったことが挙げられた。また、「やさしかった」と回答した学校も 4.3% (10 校) あつた。

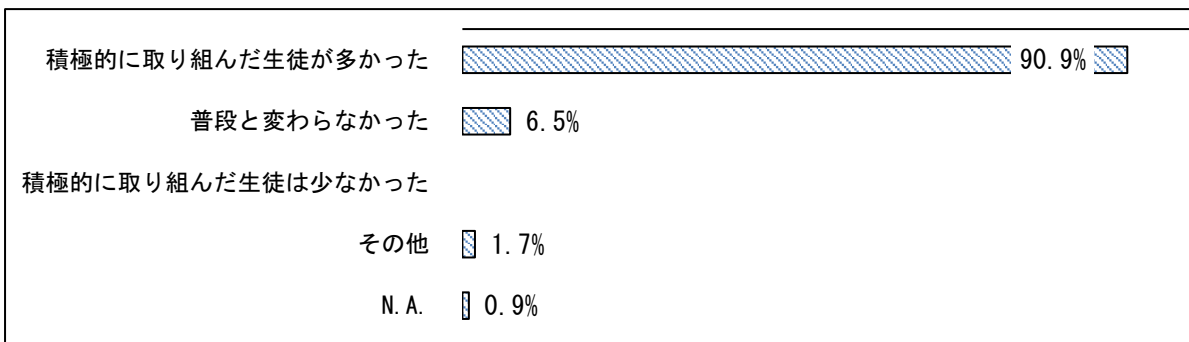
(第6図) 株式学習ゲームの難易度について



(5) 生徒の取り組み姿勢について（複数回答）

生徒の取り組み姿勢について尋ねたところ、「積極的に取り組んだ生徒が多かった」が最も多く90.9%（209校）であった。以下「普段と変わらなかった」6.5%（15校）と続き、「積極的に取り組んだ生徒は少なかった」と回答した学校はなかった。

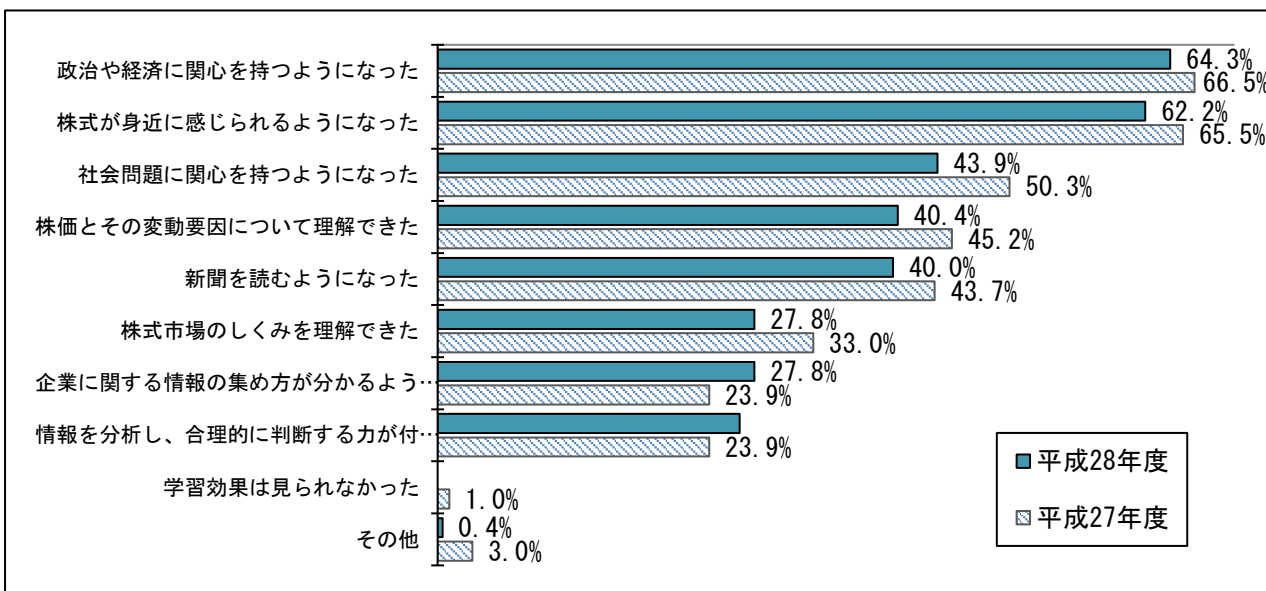
（第7図）生徒の取り組み姿勢について



(6) 株式学習ゲームによる学習効果について（複数回答）

本教材を授業に導入して、どのような学習効果があったかについて尋ねたところ、「政治や経済に関心を持つようになった」64.3%（148校）が最も多く、以下、「株式が身近に感じられるようになった」62.2%（143校）、「社会問題に関心を持つようになった」43.9%（101校）と続いた。また、「株価とその変動要因について理解できた」40.4%（93校）、「新聞（株式欄、政治・経済面、社会面）を読むようになった」40.0%（92校）、「株式市場の仕組みを理解できた」27.8%（64校）などの回答があった。そのほかに、「資産運用の重要性に気付いた生徒が多かった」、「株式などを積極的に活用して将来に備えようという考えを持つ生徒もいた」、「スマートフォンを利用して経済に関するニュースを読むようになった」といった回答も寄せられた。

（第8図）株式学習ゲームによる学習効果について



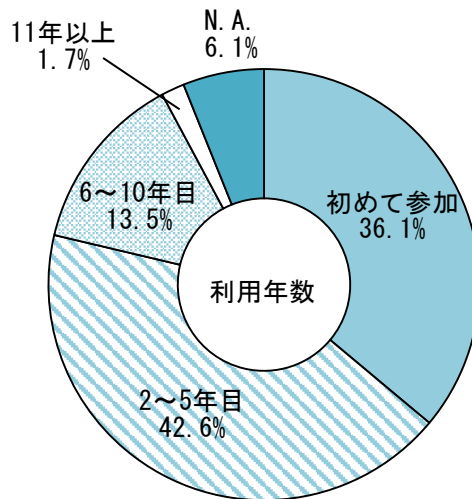
(7) 提供教材以外に利用した教材等について(複数回答)

本教材を使った授業を進める上で、独自に利用した資料等について尋ねたところ、「新聞(記事の抜粋を含む)」が23校、「ホームページ(ヤフーファイナンス等)」が18校、「自作プリント」が14校、「会社四季報」が8校、「雑誌・書籍等」が7校であった。

(8) 株式学習ゲームの利用年数について

本教材の利用年数について尋ねたところ、「初めて参加した」が36.1%(83校)、「2~5年」が42.6%(98校)、「6~10年」が13.5%(31校)、「11年以上」が1.7%(4校)であった。

(第10図) 株式学習ゲームの利用年数について

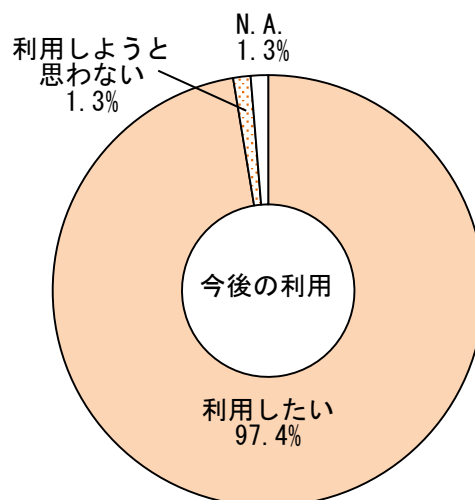


(9) 今後の参加予定について

本教材の今後の利用予定について尋ねたところ、「利用したい」と回答した学校が97.4%(224校)に及んだ。

一方、「利用しようとは思わない」と回答した学校は1.3%(3校)あり、その理由としては「来年度から対象となるゼミナールを受け持たなくなる為」「来年度は科目がなくなりました」ということであった。

(第11図) 今後の参加予定について



参考：株式学習ゲームについての意見・感想等の概要

I. 生徒の反応、感想等（自由記入：230 校中 124 校より回答を得た）

株式学習ゲームに対する生徒の反応について、全体的な感想としては、「今までよりも新聞を読んだり、ニュースを見たりするようになった」、「社会の変化が企業の株価に大きな影響を与えることが分かった」、など経済や社会に対して関心の度合いが高まったという感想が寄せられた。また「株式について、今まで関心がなかったが、授業を通して株式の仕組みがわかり身近なものに感じた」「株式投資に対する抵抗感が払拭された」「社会人になったら、実際の株式投資を行ってみたい」などの回答が寄せられた一方で、「株式投資は難しいと思った」「株式売買はリスクが大きいと感じた」という感想もあった。

（以下、主な感想等【一部抜粋・修正】）

- ・新聞に目を通すようになり、経済や世の中の流れを真剣に考えるようになった。
- ・新聞やニュースなどで経済関連の記事を株と関連付けて考えるようになった。
- ・約 2 か月間で株価が急激に変動している事を知り、世の中の様々な出来事と株価との連動を実感することができた。
- ・株式投資が身近に感じられるようになり、将来の資産運用の参考になった。
- ・通常の講義と異なり、自分たちで考えて参加できて楽しかった。
- ・株式を通して経済活動に参加してみたい。
- ・約 2 ヶ月間売買しましたが、長期間売買したかったという感想が多かった。
- ・高校生で株式売買を体験できるのは、貴重な体験だった。
- ・親と株式や企業、経済の動きを話すきっかけになり、親の仕事に興味を持った。
- ・日々の生活は様々な会社に支えられていると知り、感謝した。

（第 i 表）

教員から見た全体的な生徒の反応、感想等（原文を要約後、区分） ※複数回答	回答数(校)
新聞やニュースに関心を持つようになった	24
社会の変化と株価の連動を感じることができた	16
株式投資が身近に感じられるようになった	7
自ら考えて参加できるので面白かった	4
将来実際に株式投資をしたいと思った	4
もっと長期間の取引がしたかった	4
リアリティがあって面白かった	4
就職活動に役立つと感じた	3
家族の仕事に興味を持ち、話のきっかけとなった	2

II. 教員の授業での工夫やアレンジなど (自由記入：230 校中 108 校より回答を得た)

工夫している点やアレンジしている点については、「新聞やニュース等の時事問題を取り上げた」「オリジナルのプリント等を使用した」「プレゼンテーションを行かせた」という意見が多かった。また、売買結果を記録させたり、選定理由を記入させる学校も多くあった。株式についての講義を行った学校では、東京証券取引所や証券会社等の講師派遣を活用するケースも見られた。そのほか、授業ごとにグループ別に状況をプレゼンテーションしたり、生徒の興味・関心を高めるため、教員自らも参加して順位を競ったりした学校もあった。

(以下、主な工夫等【一部抜粋・修正】)

- ・日経平均株価に大きな変動があった際は、教材や新聞を用いて解説した。
- ・1か月単位で新聞をまとめ、株価の推移とその原因にあたる経済ニュースを分析した。
- ・夏休みの宿題として、自分が選んだ会社の株価、日経平均株価、為替レートと、その日のおもなできごとを新聞記事から読み取り、毎日記録することを求めた。
- ・毎時間注文の記録用紙を配布し、売買の理由、その時々々の時事についての問いに対する答えを記入させた。
- ・2時間連続の授業なので、1時間目に新聞を読ませ、次の時間に取引させ、取引内容について発表させた。
- ・売買理由および評価損益に対する分析を記したプレゼン資料の提出を学生に課し、それをもとにゼミ内プレゼン大会を行った。
- ・応援した企業についてより深く調べプレゼン発表させた。
- ・クラスのローカルルールを適用した。(10 銘柄以上に分散投資をする等)

(第 ii 表)

工夫している点・アレンジしている点等 (原文を要約後、区分) ※複数回答	回答数(校)
時事問題 (新聞、テレビのニュース、インターネット等) を取り上げた	22
オリジナルのプリント等を使用した	17
プレゼンテーションを行かせた	15
企業研究 (CSR・ニュース・企業見学等)	14
売買理由を明確にさせる	14
レポートの提出を求めた	9
売買結果を記録させた	9
スマートフォンやタブレット等を活用した	6
取引結果や順位を掲示した	6
株式や株式会社に関する講義を行った	5
購入の条件を追加した (分散投資を行う等)	4
取引しやすい環境作りを行った	3

以上